

令和6年度 学校評価報告書（実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価（3月26日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・学習指導要領の趣旨や生徒の実状に応じつつ、配慮を必要とする状況にも対応できるカリキュラム・マネジメントに取り組む。 ・新しい時代に必要となる資質・能力の育成をめざし、授業改善と探究活動の充実を図る。	①教育課程に関する検証を行い、成果と課題について整理する。 ②探究のプロセスを取り入れ、授業改善を促進し、授業における1人1台端末の利活用を拡大する。	①成績処理業務以外でも教科会を行い、教育課程及び授業研究に関する検証・議論を深める。 ②定期的な授業改善研修を実施し、ICT利活用に関する先進事例及び校内の取組事例を共有する。	①各教科で教科指導及び評価の課題は整理できたか。 ①公開研究授業に組織として取り組めたか。 ②生徒による授業評価において、授業のあり方について好意的な評価が9割5分を超えたか。 ②ICT利活用に関する先進事例及び校内の取組事例を共有することができたか。 (会議等を3回以上)	①公開研究授業に向けて教科全体で協力して指導案を作成することで、指導及び評価の課題を共有し、組織として取り組めた。 ②前期の生徒による授業評価において、授業の在り方について好意的な評価が9割2分であった。 ②ICT利活用に関する事例共有を3回行った。	①研究協議後の教科会議を実施し、より公開授業研究の充実を図る。 ②職員会議とあわせて実施している授業改善研修を継続する。また、Teamsを活用して事例共有を行う。	②授業での生徒のペアワーク等のコミュニケーションに対する不安の解消についてどう対応するのか。また、上手く取り組めない生徒の支援についてどう対応するのか考えることが課題である。 ②後期の生徒による授業評価において、授業の在り方について好意的な評価が9割4分であった。 ②生成AIの活用事例を含むICT利活用に関する事例共有を行った。	①公開研究授業に向けて教科全体で協力して指導案を作成することで、指導及び評価の課題を共有できたが、研究協議後の教科会議は実施できなかった。 ②生徒間の学び合いの改善策や支援策を検討する。 ②今年度も実施している授業改善研修を継続する。また、Teamsを活用して事例共有を行う。	①年間授業改善計画として、各教科の授業改善目標を集約する形式を検討する。
		・教育活動全般をとおして生徒の主体性や人間性を高め、社会に貢献できる人材を育成する。 ・生徒理解を深め、個に応じた柔軟な支援を行える体制を組織的に整備し充実させる。	①規範意識や身だしなみについての意識の醸成を図る。 ②SC、SSWを効果的に活用し、生徒の抱える問題の早期発見に努める。	①モラル・マナー教育の充実と丁寧な指導により、基本的な生活習慣を確立させるとともに、規範意識を高めるために頭髪・遅刻・服装指導をする。 ②教育相談体制を確立し、個別支援を充実させるために生徒情報交換会を複数回実施する。 ②生徒支援におけるフィードバックで支援担当及び担任の共通理解が図れたか。	①校則や社会規範に対する生徒の理解を深めた上で、時間厳守、挨拶励行、服装頭髪マナーの向上等を図り、指導対象者数を前期と比べて後期に減らすことができたか。 ②教育相談コーディネーターやSC、SSWの連携ができたか。(会議等を月1回以上) ②生徒支援におけるフィードバックで支援担当及び担任の共通理解が図れたか。	①4月に登校指導実施、各年次で遅刻指導・頭髪指導を行った。HRや全校集会で服装指導を行い、身だしなみについて意識の醸成を図った。 ②6月と10月に県の施策である「かながわ子供サポートドック」の実施を受け、SC、SSWとの連携が推進されている。(会議等を月1回以上行った) ②職員対象の研修会を実施した。	①遅刻生徒からの不審者等の報告が多く、遅刻指導・頭髪指導に加えて服装指導についても引き続き指導を行う。 ②早期に対応が必要な生徒に対して支援を行う。 ②次年度も継続して実施する。	①引き続き指導の充実を図ることが必要である。 ②「かながわサポートドック」の実施を受け、PSS型面談で一定数の生徒を支援へ繋ぐことができた利点もあるようだが、本校でもその評価を実施し、必要であれば学校独自のサポートを追加で行う等の対策をとるべきである。	①1月に登校・服装指導を実施し、警察と連携し不審者対応を行った。服装については12月に全校集会で注意喚起を行い一定の改善が見られた。 ②「かながわサポートドック」の実施を受け、PSS型面談で一定数の生徒を支援へ繋ぐことができたが、PSS型面談以外の相談数が減少している。また、支援が必要だと感じている生徒もSC・SSWのどちらに相談してよいかわからないケースがあった。	①来年度は定期的に登校指導を警察と連携し行っていく必要がある。基本的な生活習慣はHR等で教職員全体で共通理解のもと指導していく。 ②来年度も5月と9月に「かながわサポートドック」を実施し、早期に支援できる体制にする。また、生徒へ教育相談の情報を分かりやすく発信する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	・学校行事や部活動等を活性化させることにより、生徒の主体性や協調性の向上を図る。	③実行委員の生徒等の意見をもとにした行事運営を行う。 ③行事や部活動等において、生徒同士の協働を重視した活動を行う。	③実行委員の生徒等にアンケートを実施し、活動を通して主体性や協調性が向上したという生徒が8割以上いたか。	③現在までに終了している行事の実行委員のアンケート中間結果として、主体性や協調性が向上したという生徒が9割以上いた。	③行事の実行委員のアンケート結果として、主体性や協調性が向上したという生徒が9割以上いた。	③部長会の実施等、教員の働きかけがきっかけであっても、その後の活動が生徒主体で行われている点は良い。生徒が変わっても活動を継続していくことができるよう、伝承のシステムを作ることが重要である。	③生徒自身が考えて行事の内容や準備の計画を練り、実現に向けて進めていくことができた。また、部長会が始動し、自分たちの活動の発信を始めた。 ③生徒が変わっても継続できる仕組みをつくっていくことが課題である。	③次年度も継続していく。また生徒会本部と行事の実行委員会及び部長会の連携を強めていく。 ③部長会も実行委員会と次年次のリーダーを含めて活動を実施する。	

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月12日実施)	総合評価(3月26日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	・校内での指導・支援と学校外の教育力を系統的に展開することにより、生徒一人ひとりが自己的適性を正しく理解しながらキャリア意識を高め、希望する進路を実現できる体制を整える。	①自己の適性を理解させるとともに職業意識を持たせ、将来の目標実現に向けての活動につながるようにする。	①外部模試や適性検査、各種講演会や説明会など学校外の教育力を活用し、現状把握をするとともに目標設定をさせる。	①アンケートを実施し、自分の客観的な位置を把握できた、1年間学習活動を継続し目標を実現できたという生徒が8割以上いたか。	①自己診断テストや職業ワークを実施し自己理解や職業理解を深め将来について考えさせることができた。 ①卒業生向けのアンケートで自分の将来(進路実現)に対する質問について好意的な評価が8割2分であった。	①キャリア教育3年間の流れをどうしたらもっと生徒に意識させられるかさらに検討する。	①引き続き進路指導の充実を図ることが大切である。	①4月、8月、3月に外部テストを実施し、4月と3月の外部テストについて分析報告会を実施することで進路について意識づけができた。また、5月と9月の面談資料としても活用できた。	①計画的に外部模試を実施できるようになつたので、年度別比較や個人の取組み状況などからさらにきめ細かく進路指導をする。
		②探究的な学びについて3年間のまとめをするとともに探究的な活動をキャリア教育につなげられように支援する。	②「総合的な探究の時間」を通して学びのスタイルを身に付けさせるとともに、興味・関心をキャリア選択につなげさせる。	②アンケートを実施し、希望する進路先や受験方法の決定に際し、妥協したり安易に決めたりせず、自己の目標や適性に沿ったものとなつたという生徒が8割以上いたか。	②1・2年次ともに生徒による授業評価のすべての項目で、好意的な評価が9割以上である。3年次は総合型の受験者数が35名から69名に増えた。	②探究の2年間の流れを見直す。また、大学受験方法についても分析を行う。	②横浜南地区探究的学習発表会を見学して、大人にはない視点から物事を捉え充実した発表を行つており感心した。	②1年次は体育祭という身近なテーマから探究活動を体験させ、2年次は夏休みの調べ学習を通して個人のテーマを決めた。3年次は探究の経験を総合型受験に活かすことができた。	②探究の2年間の流れを見直す。 ②総合型受験が併願可能になったことで安易な受験をしないように指導する。
4 地域等との協働	・地域や保護者等との連携・協働を図り、信頼され開かれた学校づくりを推進する中で、生徒の主体性や社会性を育む。	①保育園ボランティアをはじめ、近隣の中学校との連携を推進し、生徒の主体性を育む。	①長期休業期間を利用して、保育園ボランティア等への生徒参加を促す。 ①近隣の中学校と連携して、地域祭りへの生徒参加を促す。	①保育園ボランティア等への参加数が20名を超えたか。 ①地域祭りへの参加生徒が10人を超えたか。	①保育園ボランティアへの参加が14名であった。 ①夏休み中の募集だったこともあり、地域の祭りへの参加希望生徒はいなかつたが、近隣の保育園との交流を吹奏楽部生徒12人が行った。	①地域祭りを宣伝する方法及びボランティア委員会のあり方を検討する。	①吹奏楽部の生徒が園児との話し合いの機会を持つなど、演奏以外での関わりがあつた点が非常によかったです。生徒自身で想像する教育が行われている点を評価したい。交流が発展してきている。 ①普段あまり接点のない小学校と高校との連携をどのようにするかが課題である。	①部活動と保育園の交流を行なうことができた。 ①地域へのボランティアの参加がほとんどない。	①地域との交流の進め方についてボランティア委員会を中心にする。また、ボランティアの生徒へのアナウンスを早めに行い、参加者20名を目指す。
		②地域貢献活動等を推進し、教育環境の整備・充実を図るなかで、生徒の社会性を育む。	②説明会や面談を通して、地域貢献活動等ボランティアへの積極的な参加を促す。	②参加者にアンケートを実施し、活動を通して地域の一員としての意識が高まったという生徒が7割以上いたか。	②11月に清ヶ丘公園を含む近隣清掃の地域貢献活動を実施した。卒業生向けのアンケートで地域貢献の意識向上に対して好意的な評価が8割1分であった。	②今年度は3学年一斉に実施した。より広い範囲での活動ができた。次年度も継続する。	②地域貢献活動を学校全体で実施したこと、広範囲の活動ができた。	②次年度も学校全体で地域貢献活動を実施する。	
5 学校管理 学校運営	・地域や保護者をはじめ社会の教育ニーズに対応しながら、安心して学ぶことのできる教育環境を整備し、学校の取組に関する情報を積極的に発信する。 ・職員の教育公務員としての自覚を高めつつ、ワーカライフバランスを推進しながら協働性を高め、業務の効率化を図る。	①校舎の老朽部分や校内の危険個所を改善し、安全な教育環境をつくる。	①毎月の衛生委員会による危険個所の点検機会を利用し、速やかに対応できる体制をつくる。	①適切に点検を実施し、状況を全体で把握することができたか。	①職員室や印刷室の不要なものを点検および処分した。	①今後も整理しながら危険個所等の点検を行う。	①②生徒、保護者の本校の教育に対する満足度が年々上っていくように努力すること。 ②地域貢献活動等の様子もHPでアピールすることが必要である。	①過去から残されたものを処分した。今後も定期的に確認を行い、不要・老朽化したものは計画的に処分する。 ②清陵ナビで例年以上の情報発信を行い、学校の様子を伝えることができた。	①1年に3回程度、点検を呼び処分する機会を設ける。
		②HPの充実を図り、学校の取組が見えるようにする。	②教育活動を積極的にホームページに掲載する。	②清陵ナビで月2回以上の情報発信が行えたか。	②清陵ナビで月2回以上の情報発信を行った。	②行事や集会等の様子を写真で記録するように都度声がけする。	③引続き研修等の充実を図ることが望ましい。	③全職員で事故防止に取り組む体制はできている。情報化に伴う事故について全職員で共有を図る必要がある。	②地域貢献活動等の情報発信を含め、HPの編集ができる教員を育成する。
		③専任の職員だけでなく、非常勤職員を含めた全職員で事故防止及び不祥事防止に努める。	③不祥事ゼロプログラムを全職員で確認し、毎職員会議前に不祥事防止研修会を実施する。 ③ヒヤリハットな事例を非常勤を含めた全職員で共有する。	③毎職員会議に研修を実施し、情報共有を図り、事故・不祥事を防げたか。 ③職員の自覚や協働性を高めることはできたか。	③毎職員会議前に事故防止会議を実施している。 ③県からの資料を活用し、様々なヒヤリハットな事例を共有した。	③朝の打ち合わせ等でも、事故防止を呼び掛ける。			③事故防止研修会だけでなくTeamsの掲示板等を用いて共有を図る。